

# 中三国語科通信

第2号  
令和4年1月14日  
国語科3年担当  
堀之内・俣間・日高



お年玉をもらう時だけ「ございます」をつけてお礼を言いし二歳児

## 作文コンクール入賞



大久保凜さん



安木千紗都さん

夏休みの課題として提出してもらった作品で、「第二回宮崎県中学生北方領土問題に関する作文コンクール」に応募した中から、一組の大久保凜さんが優秀賞受賞、同じく一組の安木千紗都さんの作品が入選しました。応募総数七十六点の中から優秀賞は二点、入選は五点という狭き門でした。



成竹胡美さん



福永心陽さん

同じく夏休み課題として、宮崎フエニックス自然動物園主催「動物の作文コンクール」に応募した中から、三組の成竹胡美さん、福永心陽さんの作品が入賞しました。



## 自己探究ノート「私と〇〇」

中3恒例の「私と〇〇」。紹介するのは、「上手」なものだけではありません。ある意味「問題作」も含まれているかも……???

### 「私と時間」

岩崎湖子

私は時間に支配されている。学校では授業という決められた時間を過ごし、家では勉強をしないと、思いながらTVや漫画を見てだらだらしてしまふ。そして「時間が無い」「もっと時間が欲しい」と嘆く。まるで時間の亡者のようである。

これから夏休みに入る。時間に追われる日々を抜け出して、時間の支配者になりたい。

▼私もまた時間の亡者です。だがしかし、時間を生み出すために何をしなくてはならないのか、本当はよくわかってはいるんですけど、無いのは、時間じゃなくて強い意志。

### 「私とクリスマス」

大久保凜

赤いおじさんは多忙だから部下として、一年に一度だけ子を持つ親を雇っている。おじさんはフィンランド在住だから日本など遠くにいる子供たちには親が代行してプレゼントを渡している。おじさんは妖精だから死なない。だから親が子にプレゼントを渡す文化は今でも続いているのだろう。そしてこれからも続いていくだろう。

▼信じる子どものところにしかサンタは来ない！ 大久保さんのところにはきつと……。冒頭の「赤いおじさん」という表現が、読み進めるほどにじわじわきます。

### 「私と友達」

平田遙仁

僕は友達が分からない。どれくらい親しければ友達と呼べるのだろうか。考えても考えなくても分からない。だから、誰が友達かと質問をされたらすぐには答えられない。

世間一般はどのくらいから友達と言うのか、ましてや親友などはどれほど親しいのか、僕はそれを知りたい。そして友達と言える人がいてくれることを願う。

▼人間不信ではないし仲良くしたい人もいるのに、「友達」がわからないのは臆病な心のせいなんだよなあ、きつと。本来一人称は「私」ですが、「僕」がマッチする文章です。

### 「私と時間」

山下蒼太

ある時から時間を無駄にしないように過ごすようになった。それは、死について悩み出してからだ。誰でもいつかは絶対に誰とも知らないという事実を受け入れるだけのこと。時間がかかってしまった。その頃から短い人生を充実させるためにゲームをやめたりして、無駄な時間を無くすようになった。

▼死をこれほど簡潔かつ的確に定義化するには、かなりの葛藤があったはず。山下君にとって、ゲームをやめることは限りある生と真剣に向き合った結果なんですね。ずしりと重い。

コラムマラソン 第2回

### 「IT機器は人類を進歩させた？」

堀之内圭子

IT機器に疎い私でも、業者とZOOMで打ち合わせをしたり、遠くの友人たちとグループビデオ通話を楽しむなんてことができる時代。スマホがあれば電話番号なんて覚えなくてもいいし、写真に撮ればメモしなくてもいい。検索すれば大抵のことは教えてくれる……。確かに便利ですね。しかしそれはパソコンやスマホが進化しただけのことであって、それによって人間の記憶力や計算能力はむしろ退化しているのではないかと思うのです。もちろんこれからの社会、コンピュータリテラシー（何のことか分かりますか？）を身につけることは必須だし、ICT（何の略か分かりますか？）教育は時代の趨勢（読みますか？）なので、進めていかなければいけません。教科によってはとても効果的な使い方ができていると思います。しかし実は、タブレットなどのIT機器を導入して学力が上がったというデータはどこにもないのです。「新しく便利」が、私たちを賢くしてくれるわけではありません。私たちを賢くするのは、昔ながらの地道な努力しかないのです。「あたりまえのことを馬鹿にしないでちゃんとやる」今年もこれを徹底していきますよ！

※趨勢（けいせい）…意味が分からない人は辞書を引こう。まず語彙力を身につけないと賢くなれないですよ〜。